

日本ミャンマー未来会議の活動拡大へ、トヨタカローラ福岡株式会社、エムスタイルジャパン株式会社と協力体制を構築

旧日本軍兵士の遺骨調査・帰還に関するサポート活動ほかを行う一般社団法人 日本ミャンマー未来会議(事務局:福岡県福岡市、代表:井本 勝幸)は、トヨタカローラ福岡株式会社(本社:福岡県福岡市、代表取締役社長:金子 護)、世界初のツバメの巣ブランド「美巢」を展開するエムスタイルジャパン株式会社(本社:福岡県福岡市、代表取締役社長:稲富 幹也)と協力体制を構築。活動のさらなる発展・拡大を図っていきます。

その第一弾として、エムスタイルジャパン株式会社が展開する「美巢」の商品をトヨタカローラ福岡が運営されるレクスス久留米の新車納車時プレゼントとして利用。収益の一部を日本ミャンマー未来会議の活動資金へ還元していただくことになりました。



(写真左から)
稲富社長、井本、金子社長

今回、金子社長のご英断とリーダーシップにより、素晴らしい支援体制を構築していただきました。

私たちの活動についてはじめて説明させていただいた際、「ぜひ協力したい」と力強く言っていただきました。ありがたいお言葉に心から感謝致します。

トヨタカローラ福岡様は「縁する人を笑顔にする」との想いを掲げられています。

私たちの活動はまだスタートしたばかりです。しかし、金子社長からいただいたご支援と笑顔の輪を広げていくことが私たちの使命と心に刻み、日々の活動に全力で取り組んでまいります。

2018年6月の発足以来、様々な分野の方々からお声がけをいただき、日本ミャンマー未来会議への支援の輪は着実に広がっています。ご支援の方法に定まった形や方法はございません。遺骨の調査はもちろん、日本とミャンマーの架け橋となることを目指す私たちの活動内容にご興味をお持ちいただけましたら、ウェブサイトよりお問い合わせください。

【日本ミャンマー未来会議について】

日本ミャンマー未来会議は、大東亜戦争において最も無謀と言われたインパール作戦に参加し、戦死あるいは戦病死した旧日本軍兵士のご遺骨約4万5000柱を日本へ帰還させることを目的としています。ミャンマーでの旧日本軍兵士のご遺骨の調査・帰還に関するサポートのほか、日本国内での広報や啓発活動、さらにミャンマーの少数民族の児童・女性・青少年への支援活動も行っています。

ミャンマーでは独立から70年にわたり、軍事政権と少数民族間で内戦が続いています。反政府少数民族は政権の圧政に対して各民族の伝統文化と人権を守るために抵抗してきました。

代表の井本は、僧侶として国際協力活動に携わる中でミャンマーの少数民族や避難民たちの惨状を目にし、2011年にたった一人でミャンマーに降り立ちました。各地の少数民族武装勢力のリーダーたちを訪ね、歴史的・文化的事情の異なる各派が一丸となって政府と交渉する連合体への参加を説得。こうした地道な和平交渉は奏功しビルマ統一民族連邦評議会(UNFC)の設立、そして2015年3月と2018年2月に政府との間で結ばれた停戦協定へと繋がりました。

活動の中で少数民族武装勢力各派からの恩返しとして提案されたのが日本兵遺骨収集への協力でした。

これまでは活動資金を寄付でまかかっていましたが、2018年6月に一般社団法人 日本ミャンマー未来会議を設立。『先祖先達を蔑ろにしたままの未来作りは真の未来を招かず』の精神を礎に、長期的な遺骨調査の活動、ミャンマーでのビジネスや事業の創出、少数民族地域における仕事や教育の支援を行っています。

【井本 勝幸プロフィール】

1964年、福岡市生まれ、太宰府育ち。福岡県立筑紫丘高校、東京農業大学、立正大学卒業。2011年1月より、単独で反政府ビルマ少数民族地域へ。ミャンマー内戦停戦に貢献し、現在は、現地の協力を得て旧日本軍兵士のご遺骨調査活動も行なっている。UNFC(統一民族連邦評議会)コンサルタント。GMSAEDC(メコン川流域圏農業教育開発センター)代表。タイ・日教育開発財団(タイ政府認可財団)最高顧問。NPO法人グレーターメコンセンター(日本政府外務省支援)副理事長。多くの人権賞、外務大臣表彰を受けている。著書に『ビルマのゼロファイター(集広舎)』がある。



■本件に関するお問い合わせ

日本ミャンマー未来会議 事務局(福岡市中央区大名1-14-45 Qiz TENJIN 702[エムスタイルジャパン内])

TEL:092-406-4579 メール:mail-info@teamimoto.jp

<https://teamimoto.jp/>